

# キルギス国チュイ州市場志向型生乳生産（MOMP）プロジェクト

## プロジェクトニュースレター

（四半期毎発行）

2017年10月号（No.1）

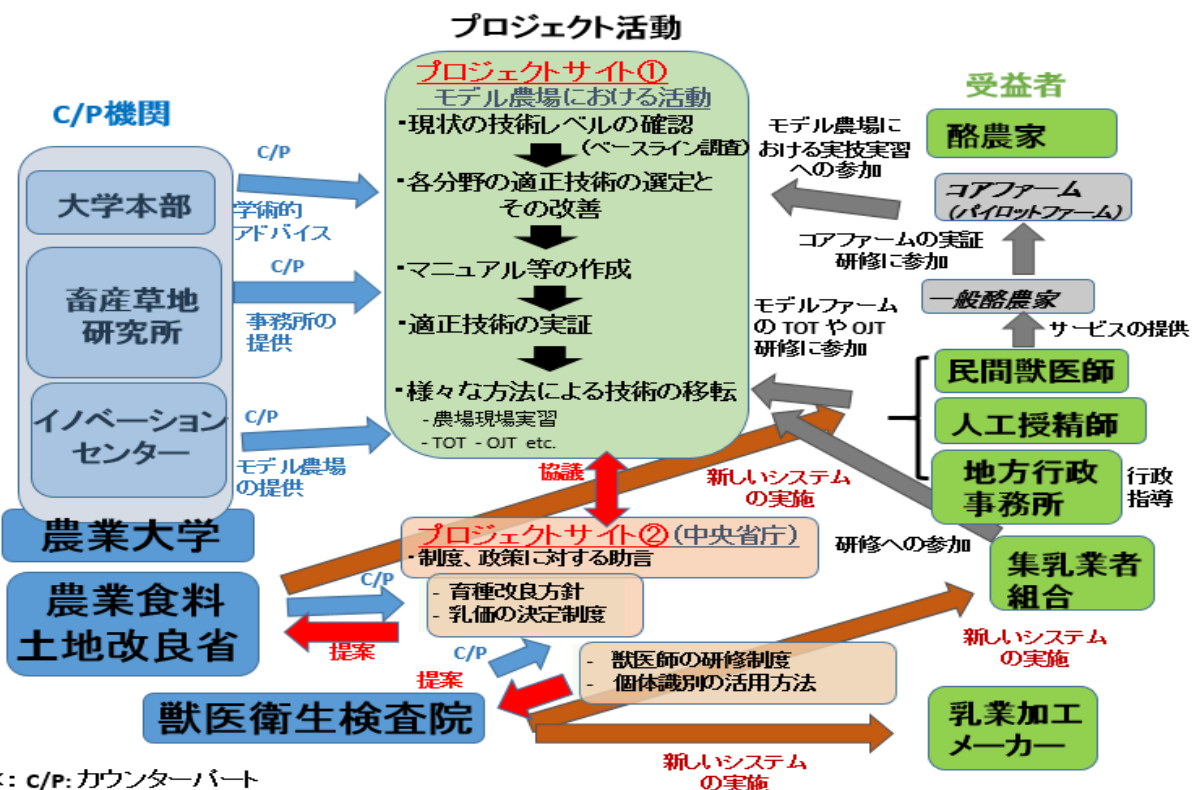
### 長期派遣専門家の着任と事務所の開設

2017年7月1日付で、長期専門家3名が首都のビシュケクに入り、活動を開始しました。プロジェクトは以下の表の専門家5名構成ですが、まずは3名が着任しました。また、早速、ローカルスタッフ(3名)も雇用しました。当初、JICA キルギス事務所の会議室を一時事務所として活動していましたが、カウンターパート機関であるキルギス農業大学の畜産草地研究所の建物の一角に事務所スペースを確保できたので、そこを事務所として整備し、8月1日より本格移転しました。また、9月28日には、業務調整/研修の専門家も着任し、4人体制となりました。

担当分野	氏名
チーフアドバイザー/制度・政策支援	下平乙夫
家畜飼養(飼料・栄養・搾乳管理)	中谷政義
家畜衛生(搾乳衛生・繁殖・生産病)	木下秀俊
生乳生産管理・マーケティング	未定
業務調整/研修	成海政樹

### 関係機関へのプロジェクトの説明と協議等

長期専門家の着任後は、カウンターパート機関であるキルギス農業大学、農業食料土地改良省、獣医衛生検査院等を訪問して、プロジェクトの開始の報告と併せてプロジェクトの今後の進め方について説明しました。その際、関係機関の役割分担に対する関係者の理解が不十分であると感じられたので、以下のような図を作成して追加説明を行いました。



また、その際、プロジェクトの呼称として、Market Oriented Milk Production のイニシャルを取って MOMP プロジェクトとすることを提案し、関係者の同意を頂きました。

(関係機関への説明の様子)



(写真1) 農業大学における第一回目打ち合わせ



(写真2) キリマリエフ農業副大臣との第一回目打ち合わせ

## プロジェクトの説明会の開催と酪農家訪問

7月28日に畜産草地研究所の講堂において、プロジェクトの現場活動の関係者(①イノベーションセンター、研究所の職員、②ソクルク郡地方役場関係者、③近隣の酪農家、④乳業及び酪農コンサル関係企業関係者)を集めて、プロジェクトの説明会を開催しました。また、その際、参加者は4つのグループに分けて、グループ毎に抱える問題点や解決策のあり方等をグループ討論し、最後にまとめを発表してもらいました。この活動を通して、ソクルク地域の関係者のプロジェクトに対する正しい理解を得られると共に、グループ別のまとめから、ベースライン調査の対象となるコアファーム農家(パイロットファーム)の候補者の選定や調査方針の検討に際して有益な情報が得られました。8月から9月にはこの説明会に参加した酪農家を優先しつつ、タイプの異なる酪農家をいくつか選んで訪問し、コアファームを選定するための情報収集を行いました。

また、9月22日には、チュイ州のトクモク郡とチュイ郡の獣医師会、更には9月26日には、全国の獣医師会の会長が集まった会議の場においてプロジェクトの説明を行うとともに、フィールドの獣医師の抱える技術的な課題等について意見交換する機会があり、家畜衛生関係のベースライン調査の際の参考になる貴重な情報を多く得ることができました。

(プロジェクト説明会の様子とコアファーム候補)



(写真3) 司会を行うルスクル所長



(写真4) プロジェクトの概要を説明する下平チーフ



(写真5) コアファーマー候補の酪農家(1)



(写真6) コアファーマー候補の酪農家(2)

## コーンサイレージ調整に関する技術指導

プロジェクトのモデル農場があるイノベーションセンターのコーンサイレージは、昨年までは民間に所有地を無償提供して、そこで収穫・調整されたサイレージの半分をセンター分として譲り受ける方法を採用していました。しかし、この方法で得たサイレージの量は、冬季に必要な粗飼料を十分賄え切れず、さらに調整済みのサイレージ等の購入が必要なことから、今年は日本人の専門家の指導を受けながら、自ら収穫調整することとなり、9月6日から中谷専門家の指導の下、センターとしては初めてコーンサイレージ調整に取り組みました。センターにはサイレージ調整用のコンバインがないことから、他の農家から借り受けることが必要となるので、刈り取り適期よりもやや遅れた時期の収穫作業となりましたが、合計150トンのサイレージの詰め込み作業を9月15日に終了させることができました。

### (サイレージ調整の様子)



(写真7) サイレージ調整用のトウモロコシ。草丈180cm程度で、無施肥であるためやせている。



(写真8) トラクターを用いて鎮圧作業中(機械が古いため調整しながらの作業で、何度も作業を中断せざるを得なかった。)



(写真9) サイレージ調整のポイントは機械力、人力を問わずサイロの隅を適切に鎮圧することである。専門家による作業員への指導中。



(写真10) 今回の作業に関わった主なスタッフで記念撮影。今回の作業はプロジェクトの始まりのひとつであり、「これから全員の力の結集で素敵な牧場にしていこう」と気合をいれたところ。

## 成果4に関する活動計画の策定とセミナーの開催

プロジェクトの成果4「対象地域の選択された集乳会社・乳業会社が、適切な生乳流通管理技術を習得・適用し、買い取り価格に反映される」の具体的な活動内容のイメージが不明確であったことから、集乳業者の集まりである集乳業者協会と乳業メーカー（カントスツツ社）を訪問して、関連の情報を収集すると共に、成果4の活動のあり方について意見交換を行いました。

その結果、集乳業者協会は4年前に設立されたばかりであるが、集乳業者の利益代表であるばかりでなく、最終的には農家側に立って乳業会社との乳価交渉を担うような団体であること、また、会員の集乳業者は日々酪農家と接する立場にあり、農家への技術指導ができる可能性があること等が確認できました。また、集乳業者が共同利用している集乳センターの付属の乳質検査ラボの分析能力を向上させることや、集乳ポイントにおける生乳の管理技術の向上をはかることで、乳業メーカーに対する価格交渉能力が高まり、最終的には、「乳質に応じた生乳の買い取り価格の設定」に繋がる可能性があるかと判断されました。

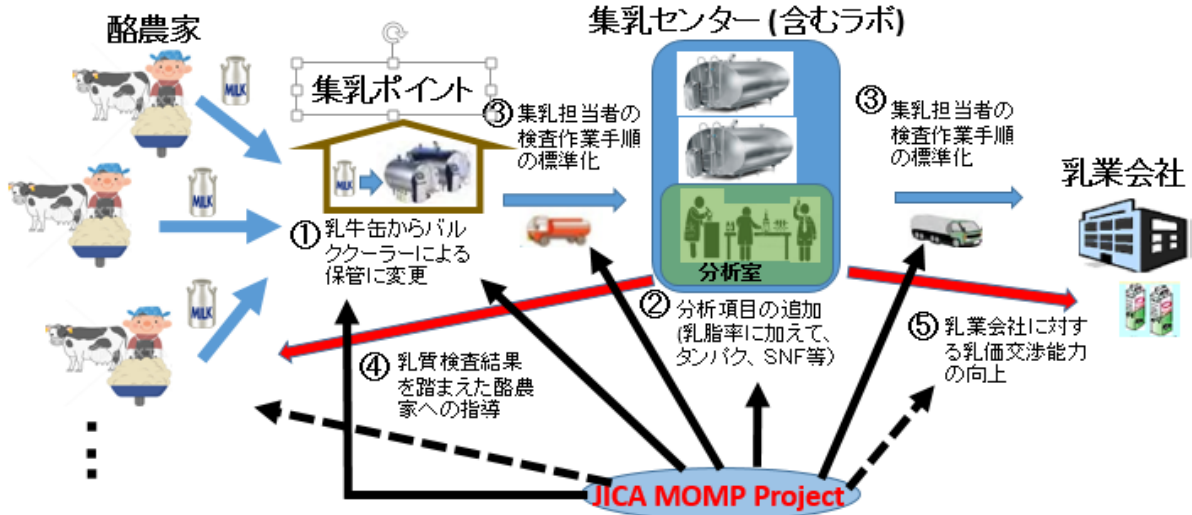
集乳業者協会からの要望も踏まえて協議した結果、1つのモデルとして集乳ポイントの生乳保管施設の改善や、集乳センター付属ラボの乳質分析能力向上を通して、生産者乳価の改善に繋がることを「成果4」の活動の柱とすることが可能であると判断し、プロジェクト側の活動内容と、協会側の責務について整理しました（下図参照）

また、9月上旬から3週間派遣された生乳流通管理の森一樹短期専門家には、実際の現場における集乳作業の実情を観察してもらうと共に、日本の集乳管理のシステムと比較しつつ、キルギスの集乳管理システムの改善の方向性について検討して頂きました。その結果を踏まえて、9月21日には、集乳業者協会の約30名の組合員を対象としてセミナーを開催し、キルギスの集乳システム改善に当たって以下の5つの提案をして頂き、参加者と議論を行いました。

- ① 酪農家における生乳保管器の標準化(計量作業の簡易化、生乳保存条件の改善)
- ② 集乳ポイントへのバルククーラーの設置(集乳時間の短縮、輸送回数の低減)
- ③ 集乳作業体系のマニュアル化(輸送車の洗浄方法やサンプル採取の標準化)
- ④ 個別農家やバルククーラーからのサンプル分析(乳質改善に向けた指導の実施)
- ⑤ 生乳検査精度の向上(第三者機関の関与による検査結果の信頼性の確保)

その結果、プロジェクトが検討している支援の方向性について集乳業者の理解が得られ、今後は各提言について、優先順位を検討すると共に、具体的な活動内容を協議することで合意されました。

# MOMPプロジェクト活動による集乳システムの改善



- ① 集乳ポイントにバルククーラーを導入し、集乳前の保管状態の改善
- ② 集乳センター付属の分析室における生乳成分分析能力の改善
- ③ 集乳担当者の集乳及び輸送段階の作業手順の標準化とその遵守
- ④ 乳質検査結果を踏まえた個別農家に対する搾乳衛生技術に関する指導と啓蒙
- ⑤ 集乳業者組合として乳業会社に対する乳価交渉能力の向上

集乳システムの改善のモデルを実証し、他の集乳業者グループへの普及を目指す

(セミナーと集乳センターのラボの様子)



(写真 1 1) 森短期専門家のプレゼンを聞く  
集乳業者協会の会員



(写真 1 2) 集乳センターの簡易な生乳品質検査  
のラボ

## プロジェクトのユニフォームの作成とロゴの活用

プロジェクトの活動はモデル農場だけでなく、コアファームにおける指導活動等、実際の酪農の現場で実施されることが多いことから、その際にプロジェクトの広報活動の一環としてプロジェクトの象徴としてのロゴマークが付いたユニフォームを着用することにしました。

そのユニフォームにつけるプロジェクトのロゴマークをデザイン会社に委託して複数のサンプルが提案されたので、プロジェクトとして3つの案を選択し、JICA 事務所、カウンターパート機関とも協議の上、プロジェクトのロゴマークとして確定しました。

ロゴマークにある残雪の2つ山波はキルギスの象徴であるアラトー山脈を、そこから昇る朝日は日本の象徴である日の丸を、その下に草を食む褐色の牛はキルギスで改良された乳用品種であるアラトー種の牛をイメージして、酪農のシンボルとして配置しています。また、プロジェクト名を英語とロシア語の両方で表記しています。

このロゴマークはユニフォームだけでなく、プロジェクトのレターヘッドにも使用する予定です。



(ユニフォーム用のロゴ)



(レターヘッド用のロゴ)

**キルギス国チュイ州  
市場志向型生乳生産プロジェクト**

プロジェクト事務所

住所：キルギス共和国チュイ州ソクルク郡  
インスティテュカヤ通り1  
国立畜産草地研究所本部 2階

*編集者より*

プロジェクトが始まって3ヶ月が経過し、活動状況を日本の関係者に知ってもらうために、プロジェクトニュースレターを4半期毎に発行することとしました。関係者の MOMP プロジェクトの進捗に対するご理解の促進と後方支援の際の参考に繋がることを願っています。なお、このニュースレターはロシア語版も作成し、関係者に配布予定です。